



# あらかじめ あじわった オバデヤ



いのり \_\_\_\_\_ しかいしゃ  
 しとしんじょう \_\_\_\_\_ みんなで  
 さんび \_\_\_\_\_ しんさんびか 499 ばん (きゆう 277 ばん) 「やみにすむひとびとみよ」、ヨハネ 14 しょう 6 せつ (2021 ねんこどもさんび)  
 せいしよ \_\_\_\_\_ I れつおう 18:1~15

**I 列王 18:1~15** アハブは王宮をつかさどるオバデヤを呼び寄せた。——オバデヤは非常に主を恐れていた。イゼベルが主の預言者たちを殺したとき、オバデヤは百人の預言者を救い出し、五十人ずつほら穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養った—— (3~4)

みことば \_\_\_\_\_ あらかじめ あじわった オバデヤ \_\_\_\_\_ しかいしゃ

オバデヤは、神様を捨ててバアル偶像をおがんでいたアハブ王の臣下でした。そして、ただ神様だけに仕えていたエリヤの弟子でした。

アハブ王とイゼベル王妃は、神様の預言者を殺しました。このとき、オバデヤは預言者 100 人を 50 人ずつほら穴の中にかくまって、パンと水とで彼らを養いました。また、カルメル山で、預言者エリヤが 850 人のいつわりの預言者と霊的戦いをするように、仲介者の役割をはたしました。のちに、エリヤに起きた迫害も見ました。

迫害の中で、神様の契約をもういちど、心に留めることも見ました。オバデヤは、契約がかならずなされる場所に、いつも弟子たちとともにいました。

いのり \_\_\_\_\_ いっしよに おおきなこえて  
 \_\_\_\_\_ いのりましょう

かみさま ありがとうございます！オバデヤのように どんな じょうきょうでも かみさまのひとを たすける ばしょに いますように。いきておられる イエス・キリストの みなによって おいのりします。アーメン

しゅのいのり \_\_\_\_\_ いっしよに しゅのいのりを いのって れいはいを おえましょう  
 フォーラム \_\_\_\_\_ きょうの みことばを きいて パパとママと はなしを しましょう



みことば あんしょう



133とは、みことばを 1にち 3かい 3かいずつ よめば  
いっしゅうかんに おぼえることが できるという いみです。



あまくて ふしぎな かみさまの みことばを まいにち よみましょう。  
よく みえる ところに はっておいて いっしゅうかん  
くりかえし よんで みことばを おぼえましょう

**アハブは**

**おうきゅうを つかさどる**

**オバデヤを よびよせた。**

**——オバデヤは**

**ひじょうに しゅを**

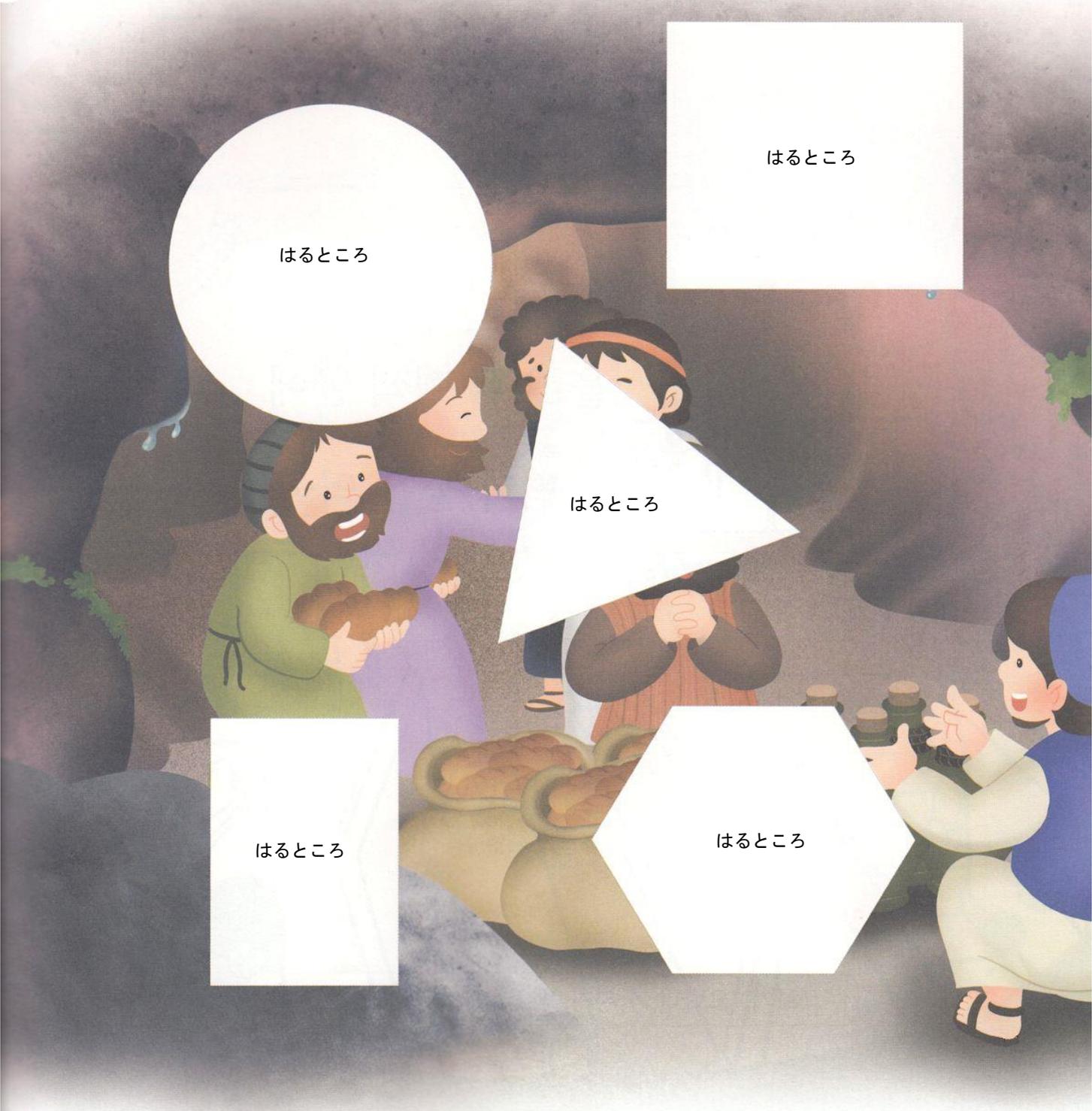
**おそれていた**

1れつおう 18しょう3せつのみことば



オバデヤは かみさまと よげんしゃたちを とても たいせつだと おもっていました。 わたしも けいやくの しゅじんこうの イエス・キリストを とても たいせつだと おもいましょう。 したの えの あいている ところに あう えを つぎのページから きりとって はって えを かんせいさせましょう。

じゅんぴするもの | はさみ、のり、つぎのページ



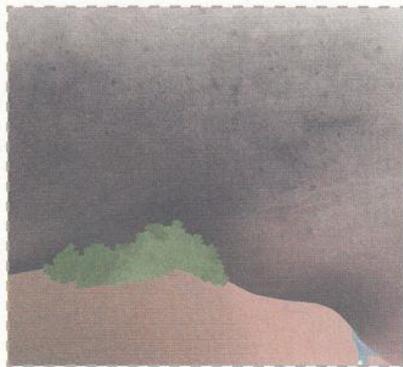
はるところ

はるところ

はるところ

はるところ

はるところ





かくしんの ないようを ところに きざみましょう



きょうも パパとママと いっしょに れいはいしましょう。  
きょうの みことばで じゅうような たんごを もういちど  
かんがえてみましょう。  
したの ( ) に あう ことばを いれましょう。

は

にんを 50 にんずつ

ほらあなの なかに 、

パンと みずとで

かれらを 。

オバデヤ、よげんしゃ、100、かくまって、やしないました

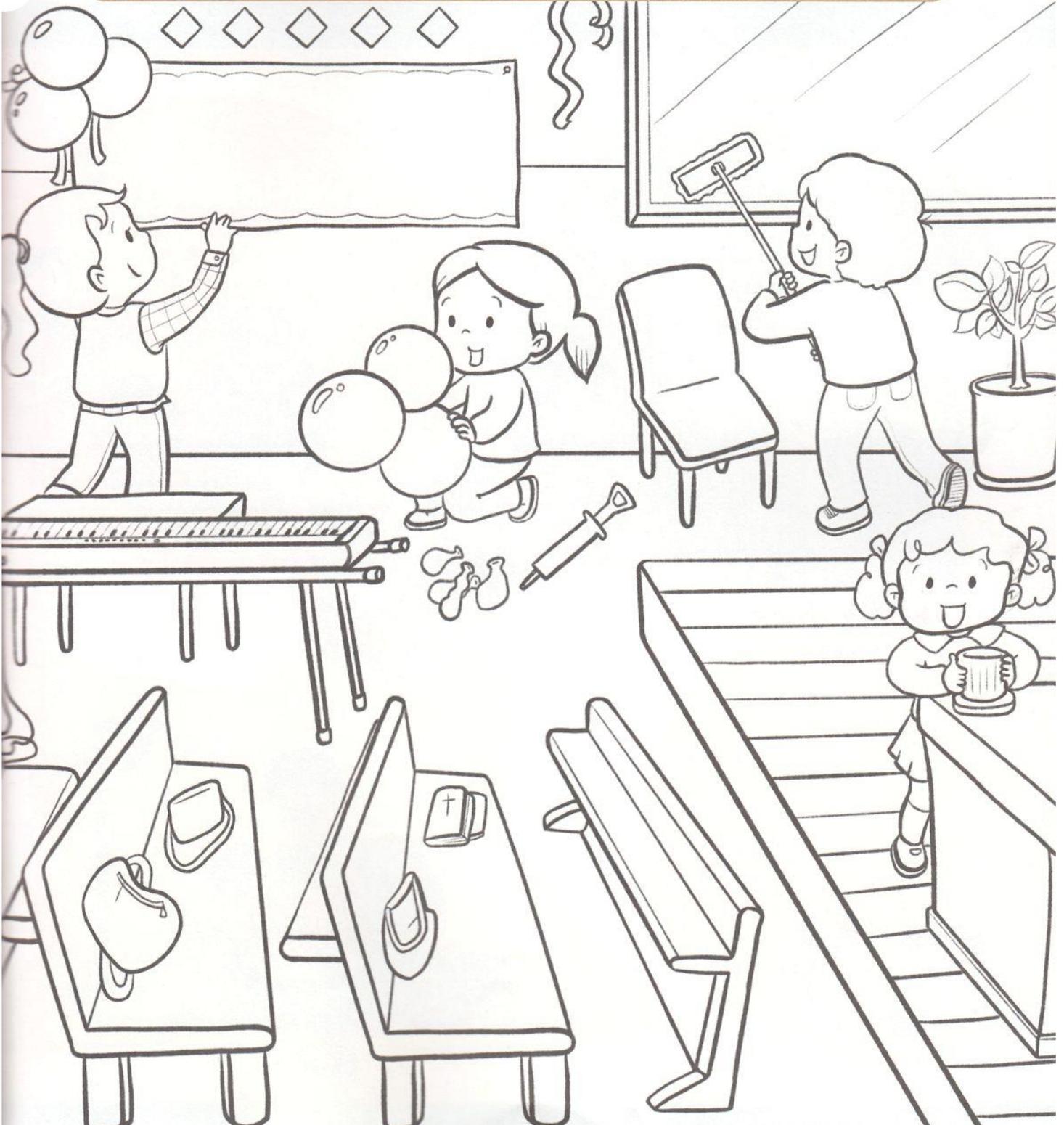


かくれている えを みつけたり きれいに いろを  
ぬったり しましょう



かみさまの ひとを たすけた オバデヤの こうどうは かみさまの  
みことばが じょうじゅする じゅうような はたらきでした。  
けいやくが なしとげられる わたしの げんぼで まわりに いる  
レムナントと いっしょに いるとき なにを たすけるべきか  
かんがえながら えに いろを ぬりましょう。

じゅんぴするもの | いろをぬるどうぐ



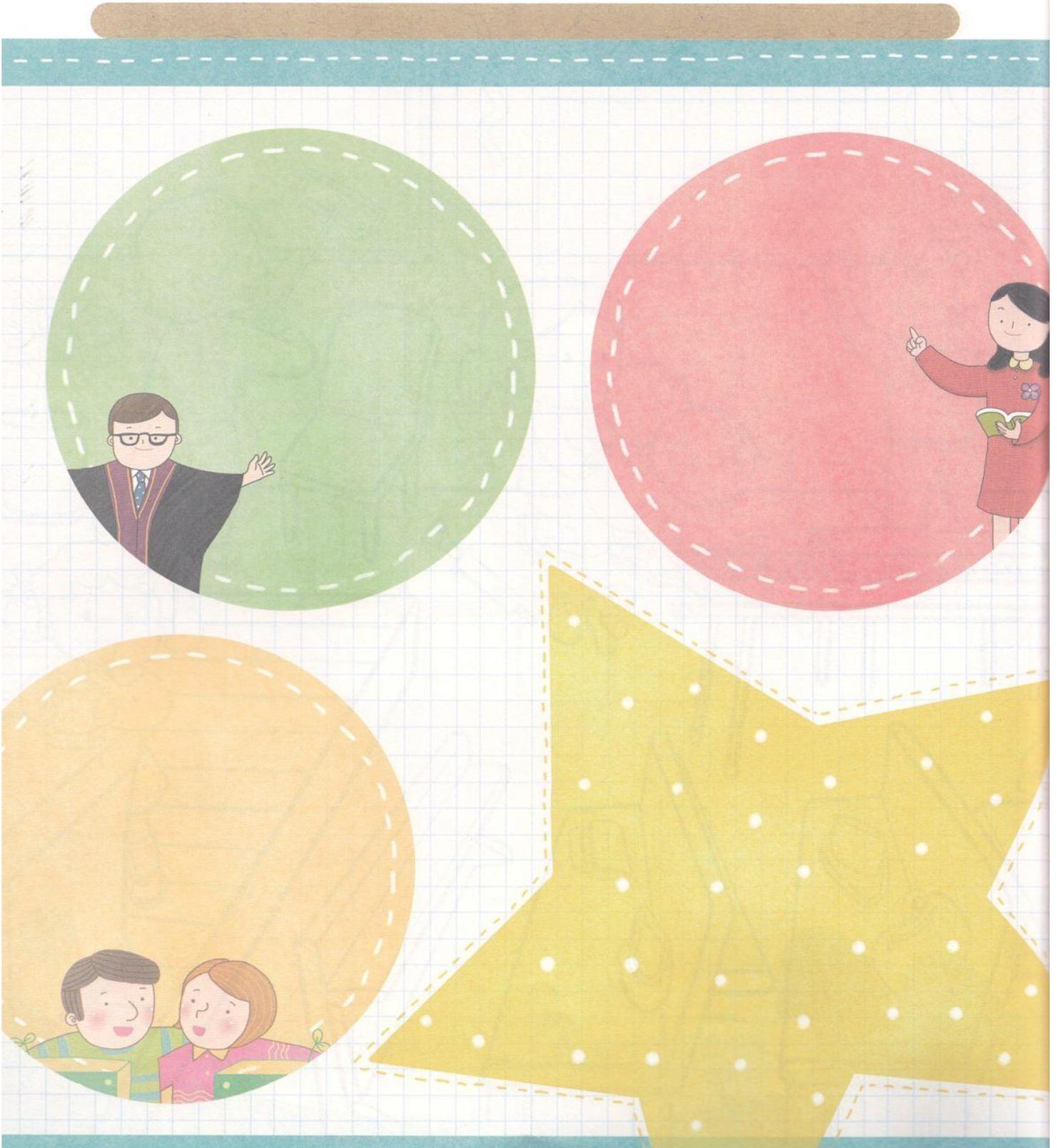
ひょうげんしよ



パパとママと いっしょに おはなしして  
かみさまが よろこばれる かんがえ ことば こうどうを  
えで ひょうげんしましょう。



わたしと わたしの かぞくは かみさまの ひとを たすけることは ありますか。  
いつ、 どのように、 なにを たすけますか。かぞくと いっしょに  
はなしを して えか じで ひょうげんしましょう。



ワーク



たのしい ワークをして いっしゅうかんの みことばを  
ここに きざみましょう



わたしは かみさまと ともに けいやくの りよていを あゆむ  
しあわせな レムナントです。 つぎの ページからある  
がくいんふくいんかの どうわを パパとママと いっしょに よんで  
レムナント エリヤに いて あげたい ことばを いいましょう。  
また わたしに ちよくせつ いてくれる ことばも かんがえましょう。

じゅんぴするもの | つぎのページからの がくいんふくいんか どうわ

## せいしよどうわを よんで しゅじんこうに こえを かけよう!



1. せいしよどうわを よみます
2. しゅじんこうに いいたい ことばを かんがえましょう
3. ふさわしい ときに しゅじんこうに こえを かけましょう
4. しゅじんこうは わたしと パパとママに なにを いてくれますか
5. かみさまに かんしゃの いのりを して おわりましょう。



アハブおうが イスラエルを おさめはじめました。

「おうさま、こころをこめて パアルのかみを おがみましよう」

おうひのイゼベルは アハブおうと いっしょに

ぐうそうを おがみました。

「もちろんだ。あなたが いう とおりに アシエラぞうも つくろう」

アハブおうは かみさまの めには とても わるい おうでした。



かみさまは よげんしやエリヤを  
アハブおうの ところに おくられました。  
「おうさま。わたしの ことばに よらなければ わたしたちの くんに  
あめは ふりません。かみさまが やくそされました」

ほんとうに ながいあいだ あめが ふりませんでした。  
とちは どんどん ひからびて いきました。  
イスラエルの ひとびとは たべるものが なくなりました。



アハブおうの けらいの なかに オバデヤという ひどが いました。

オバデヤは かみさまに つかえる ひどでした。

イゼベルおうひが よげんしやたちを ころすように いいました。

そのとき、オバデヤは いのりました。

「かみさま あなたの しもべたちを おすくいでください」

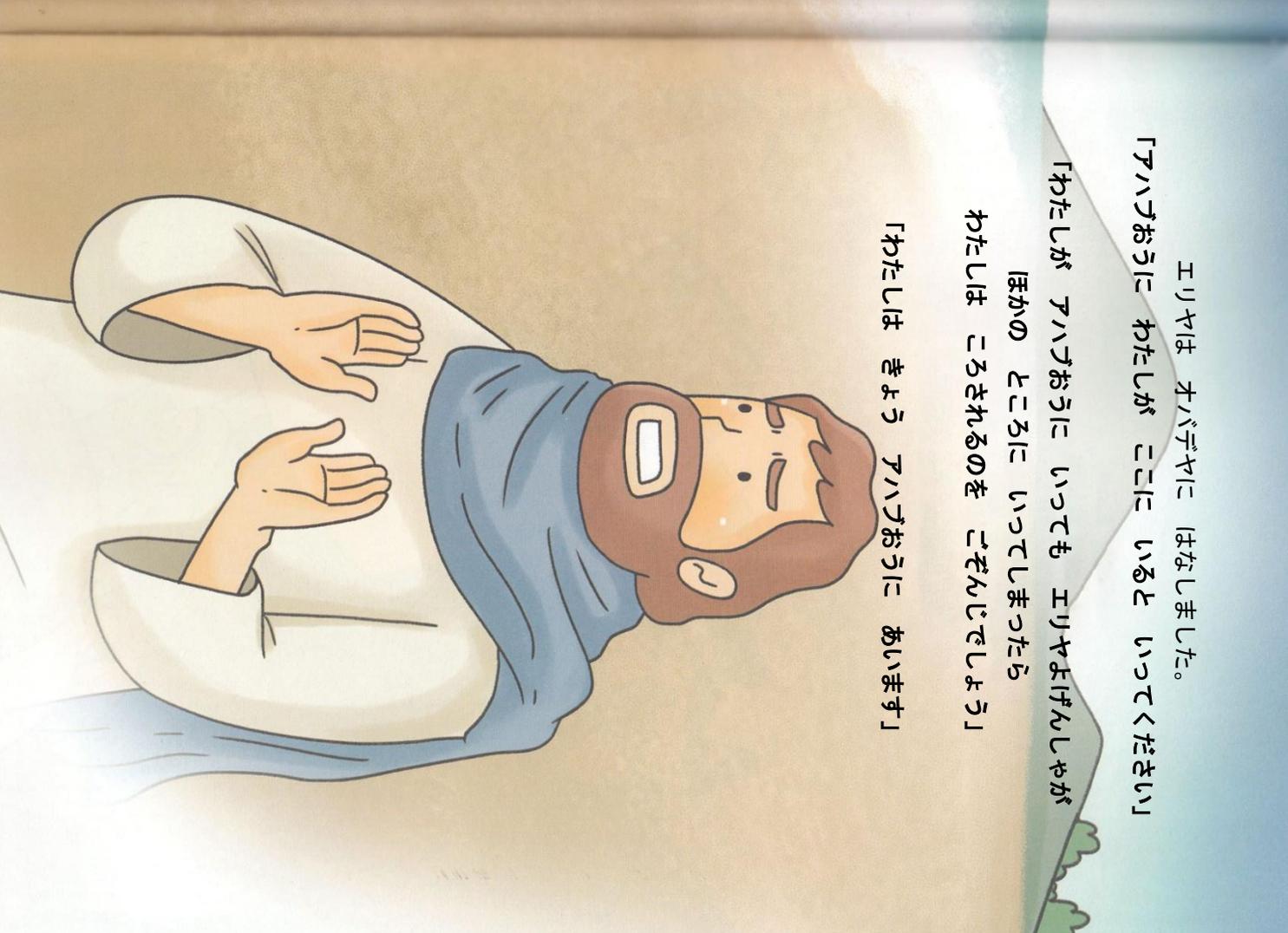
オバデヤは 100にんの よげんしやを ほらあなに かくまいました。

かれらに たべるものを あげました。





かみさまは エリヤに いわれました。  
「これから、わたしが あめを ふらせる。  
アハブおうの ところに いきなさい」



エリヤは オバデヤに はなしました。  
「アハブおうに わたしが ここに いると 教えてください」

「わたしが アハブおうに いても エリヤよげんしやが  
ほかの ところに 行ってしまったら  
わたしは ころされるのを ごぞんじでしょう」  
「わたしは きょう アハブおうに あいます」

エリヤは アハズおうに あいしました。  
エリヤは バアルに つかえる よげんしゃと  
おうしに ひを ふらせる たいけつを しました。

「あなたがたは あなたがたの かみの なを よびなさい。  
わたしは しゆなる かみさまの みなを よぼう。  
ひを もって こたえる かがが まことの かみさまだ！」

バアルよげんしゃたちは あさから ばんまで  
バアルに いのりました。  
しかし おうしに ひは ふりませんでした。

エリヤが いのったら おうしに ひが ふりました。  
ひとびとは いいました。

「エリヤの かみさまが まことの かみさまだ！」



この しらせを きいた イゼベルおうひは  
はらを たてました。

「すぐに エリヤを ころせ！」

エリヤは イゼベルおうひから  
にげるために あらのに いきました。  
えにしたの きのしたで いのりしました。

「かみさま、  
わたしの いのちを とって ください」

そのとき かみさまの みつかいが あらわれて

エリヤに たべるものを くれました。

エリヤは あたらしい ちからを うけて

かみさまの やまである ホレブに いきました。

かみさまは かすかな ほそい こえで いわれました。

「あなたの かわりに エリヤを たてる。  
また パアルに ひぎを かがめない  
7せんにんの せしを のこしている」



かみさまは エリヤが いちばん くるしいとき  
アラムじだいを いかす みことばを くださいました。

